

ストーラスキンケア

安部正敏*

学会の懇親会などで本連載をお褒めいただくことがある。しかし時に、「いいですね！ Visual ○○の連載！」と掲載誌を間違われることも少なくない。同誌編集部U氏は喜び庭駆け回り、(本誌) Tさん炬燵で丸くなる……編集者は大変である。それはともかく、本連載のお蔭で、最近少数ながらエッセイ執筆依頼が舞い込むようになり、ニセ作家気分を満喫している。

ただ、気になるのはそれに反比例して、本業の執筆依頼が減ったことであり、筆者が皮膚科医として認識されなくなるのも時間の問題であろう。そのような中、本誌編集部からだしぬけに郵便が届いた。大層分厚い書類であり、差出人は他ならぬTさんである。早速開封してみると「前略。長らくお世話になりました『憧鉄雑感』の連載は、他誌のアピールとなる危険性があるため、誠に勝手ながら連載中止と決定いたしました」のお詫びと共に、過去の原稿がすべて返却……という訳ではなく、本業の執筆依頼であった。まさに「捨てる神あれば、拾う神あり」であるが、神が同じ人物というのは珍しい。「拾う神」の依頼は、本誌増刊号「皮膚科医のための香粧品入門」の「疾患別スキンケア製品の使い方：ストーラス」の執筆である。編集委員の先生方のご厚志であろう。

何故筆者が「ストーラス」か？ と疑問に思われる先生方も多いであろう。何を隠そう、筆者は今現在「日本創傷・オストミー・失禁管理学会」唯

一の皮膚科医理事であり、斯様なテーマもあながち無関係ではない。オストミーとそのスキンケアには興味があるが、本学会での筆者の担当は社団法人化と利益相反である。よって、皮膚科医としての活躍はゼロであることをひた隠しに執筆することはかなり困難を極める。本稿など、飛行機の待ち時間などにあつという間に書き上げるが、真面目な総説など逆立ちしたところでアイデアなど溢れ出る訳もなく、まさに「業」である。

ところで、最近の新幹線車内はオストメイトに配慮したトイレを完備する車両が続々登場している。ハンディキャップをもつ方が、何不自由なく移動できることが公共交通機関の使命であり、喜ばしい傾向である。そもそも新幹線車両に多量の水を積むのは不可能であり、スペースもなければ、重量が嵩む。このため

初期の新幹線車両は、水を消毒の上循環させて使用していた。しかし最近では技術革新により、少量の水で化粧室が賄えるようになった結果、誰でも気持ち良く使用できる化粧室の装備が可能となった。ただし、東海道山陽新幹線のN700系ではオストメイト専用機器が装備されている反面、東北新幹線E5系は通常の機器を

利用する簡易型であり若干異なる。反面、温水洗浄機能を全車に完備したのはE5系が先であり、ユビキタスサービスの差は一概に語れない。敵なる飛行機には、この様な配慮はなく、筆者は拍手喝采である。飛行機搭乗の際、オストメイトは気圧の変化に備えガス抜きも必要で、医療従事者としてはこのような苦労も知っておきたい。

増刊号も交通ネタ満載にすれば瞬時に書き上げたに違いない。しかし、錚々たる先生方の力作揃いの増刊号に、鉄道ネタなんぞが掲載されれば、「捨てる神」Tさんの逆鱗に触れ、即刻『憧鉄雑感』連載中止が確定する。ならば受けて立とう！ 続きは○○ Dermatology 連載ということで……。✕



* Masatoshi ABE, 医療法人社団廣仁会札幌皮膚科クリニック, 褥瘡・創傷治癒研究所

写真の説明：E5系のデッキ。ホテルのような美しい空間。清潔な化粧室の入口に、オストメイトに向けた表示が光る(左下拡大)。飛行機にはないサービスである。